

# 「新入社員研修会」を初開催

## 37社・133人が受講

技士会は、「新入社員研修会」を4月2日(木)と3日(金)の2日間、中央区八丁堀のマツダホールにおいて、社団法人東京建設業協会(以下、東建)と共同で開催した。

この研修会は、毎年、東建が会員の新入社員を対象に実施してきたが、昨年とりまとめた「会員の意識調査回答結果」に基づいて、技士会が関係団体と連携して開催する若年技術者向けの初めての研修会である。

当日は、岡村康秀技士会会長(大豊建設㈱)の基調講演をはじめ、技士会講習会で評価の高い相馬俊一氏(清水建設㈱)と鈴木正司氏(坂田建設㈱)が講義を行った。

1日目は、岡村康秀会長が建設業の経営トップの立場から、「社会人として」と題して、ともに生きる喜び、働くことの意味、仕事と作業の違い、仕事に困った時どうするか、建設技術者としての社会的使命などをテーマに講演。「皆さんは、たくさんの選択肢のなかから、縁あって建設業を選ばれた。その仕事を通して人格を高め、1日も早く高い技術力を習得し、社会に役立つ人になっていただきたい。そして、より豊かな人生

を送ってほしい」とのメッセージを贈った。

次に、三原昭久氏(㈱グローバルインテージ)が「新入社員の基礎知識」と題し、敬語の使い方や名刺交換の作法、電話の対応、ビジネス文書の書き方などを実務指導した。

続いて、管理栄養士の栗原弘美氏が「社会人としての健康管理」と題し、現代の食生活の問題点を指摘したうえで、改善策を提案した。



講演する岡村康秀会長(大豊建設㈱)



三原 昭久 氏



栗原 弘美 氏

2日目は、相馬俊一氏が「安全に関する基礎知識」と題し、安全の大切さや災害発生のしくみを説明した後、危険予知（KY）活動の効果や指差呼称の必要性など、安全管理のポイントを解説し、“安全は全てに優先する”ことを訴えた。

続いて、鈴木正司氏が「建設業入門」と題し、建設業を取り巻く現状と建設工事の流れを説明後、土木系と建築系に分かれての実際の工事を例題にした入札の模擬体験など、実務指導を行った。

最後に、「国立新美術館建設に携わって」と題し、安井啓氏（鹿島建設㈱）が講演を行い、2日間にわたる研修会を終了した。



相馬 俊一 氏（清水建設㈱）



鈴木 正司 氏（坂田建設㈱）



安井 啓 氏（鹿島建設㈱）

平成21年度新入社員研修会 実施状況

参加会員数・受講者数		37社・133人	
性別	男性	117人	88%
	女性	16人	12%
学歴別	大学院卒	94人	70%
	短大・高専卒	1人	1%
	専門学校卒	16人	12%
	高校卒	20人	15%
	その他	2人	2%
職務別	技術系	115人	86%
	(土木)	(33人)	(29%)
	事務系	18人	14%



名刺交換の練習



グループワークの様相



熱心に受講する新入社員